

1年次セミナープロジェクト

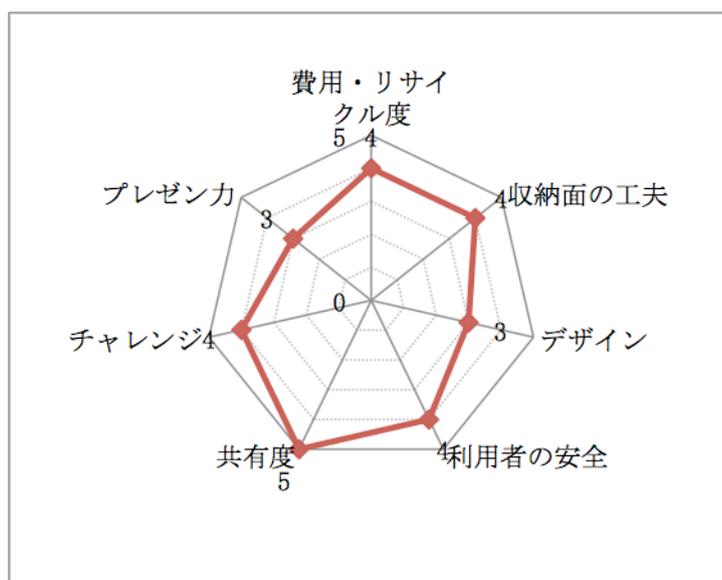
課題：幼稚園または小学校低学年を対象にした遊具／おもちゃの作成
(作品サイズは、1m×1m以内)

プロジェクト名： わくわくカルタ

対象年齢： 3歳～7歳

評価規準：1-5で評価

- 費用・リサイクル度
- 収納面の工夫
- デザイン
- チャレンジ（計画と準備の緻密さ）
- 利用者の安全
- 共有度
- プレゼンカ（クラスでのプレゼン）



スケジュール概要

日付	担当責任者 (各作業の責任者)	スケジュール
10・30	藤川	<ul style="list-style-type: none"> 各メンバーは、31日までにチーム作業に必要な行程をリーダーに提出する。 今後の連絡先などの交換。 どんなプロジェクトにしたいか、各自でブレインストーミングし、アイデアを出しつくす。
10・31	石井・唐島	<ul style="list-style-type: none"> 対象年齢を決めた（大体） 玩具のテーマ決め
11・3	藤川	<ul style="list-style-type: none"> テーマ：スポーツの種類を学ぶ →玩具をきっかけにスポーツを始めてほしい 大まかにデザインを決める 使う材料を書き出す
11・5	斉藤	<ul style="list-style-type: none"> 玩具の案変更（中間報告で報告済み） 新たな案を提案→カルタ デザイン・材料書き出し
11・9	加藤	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なデザインを考えた→表：四季の絵 裏：問題 材料を持ち寄り、試作品作り
11・12	唐島	<ul style="list-style-type: none"> 四季の絵を描き上げた 裏の問題作成 各自参考文献を読み、年齢に応じた特徴を調べる
11・20	石井	<ul style="list-style-type: none"> カルタの周りにフェルトを貼り付ける お片づけBOX作成開始 参考文献の要点をまとめた

11・24	石井	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（石井） 先生からの助言を踏まえ、遊ぶことの目的を明確に 注意書きの作成
11・26	唐島	<ul style="list-style-type: none"> 中間プレゼンの打ち合わせ 配布資料作成（別紙添付） 模擬プレゼン→時間を計り、発表の内容確認
12・3	斉藤	<ul style="list-style-type: none"> 遊び方・注意書きの作成 作成上での疑問点を経過報告とともにすることに
12・8	唐島	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（唐島） 先生からの助言を元に話し合い 4つのお片づけ BOX 完成
12・17	藤川	<ul style="list-style-type: none"> 児童館に行く前の確認
12・18	加藤・藤川	<ul style="list-style-type: none"> 実際に児童館に行った 遊ばせてみた子どもの様子について
1・5	加藤	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（加藤） 児童館で子どもから学んだことを話し合い
1・7	斉藤	<ul style="list-style-type: none"> カルタの色分けについて 参考文献を探した
1・12	藤川	<ul style="list-style-type: none"> 最終プレゼンの打ち合わせ 参考文献について話し合い
1・13	斉藤	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（斉藤） 最終プレゼンに向け最終確認 フォーマットの作成
1・14	石井	<ul style="list-style-type: none"> 最終プレゼンに向けての確認

1. 費用

計画：必要な資材の予測

項目	予想金額 or リサイクル	予想調達先
色画用紙	105 円	100 円ショップ
貼れるフェルト	1 枚 100 円	オカダヤ・ユザワ屋
セロハンテープ	105 円	100 円ショップ
布	1m 800 円	オカダヤ・ユザワ屋
ボタン	105 円	100 円ショップ・オカダヤ・ユザワ屋
マジックテープ	105 円	オカダヤ・ユザワ屋
リボン	200 円	オカダヤ・ユザワ屋
縫い糸	105 円	100 円ショップ・オカダヤ・ユザワ屋
折り紙	105 円	100 円ショップ・東急ハンズ
綿	400 円	オカダヤ・ユザワ屋
段ボール	リサイクル	自宅周辺のお店
牛乳パック	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
携帯電話の箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
サランラップの箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り

調査：調達先別の資材比較

項目	実際価格 or リサイクル	調達先
色画用紙	①8 枚入り 105 円	①100 円ショップ

	②1枚 50円	②東急ハンズ
貼れるフェルト	①1枚 84円 ②1枚 115円	①ユザワ屋 ②オカダヤ
布	①1m 680円 ②1m 580円	①オカダヤ ②東急ハンズ
ボタン	①1個 189円 ②2個 200円	①オカダヤ ②東急ハンズ
マジックテープ	①136円 ②136円	①オカダヤ ②東急ハンズ
リボン	①1m 210円 ②1m 140円	①オカダヤ ②東急ハンズ
縫い糸	①199円 ②115円	①オカダヤ ②東急ハンズ
折り紙	①105円 ②315円	①100円ショップ ②東急ハンズ
綿	①100g 252円 ②100g 294円	①オカダヤ ②東急ハンズ
牛乳パック	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
携帯電話の箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
サランラップの箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
段ボール	リサイクル	自宅周辺のお店

実行：最終資材

新規購入品：

項目	実際価格	調達先
色画用紙	8枚入り 105円×4	100円ショップ
貼れるフェルト	1枚 84円×2×4色	ユザワ屋
折り紙	105円	100円ショップ
合計	1197円	

新規購入費用： 1197 円

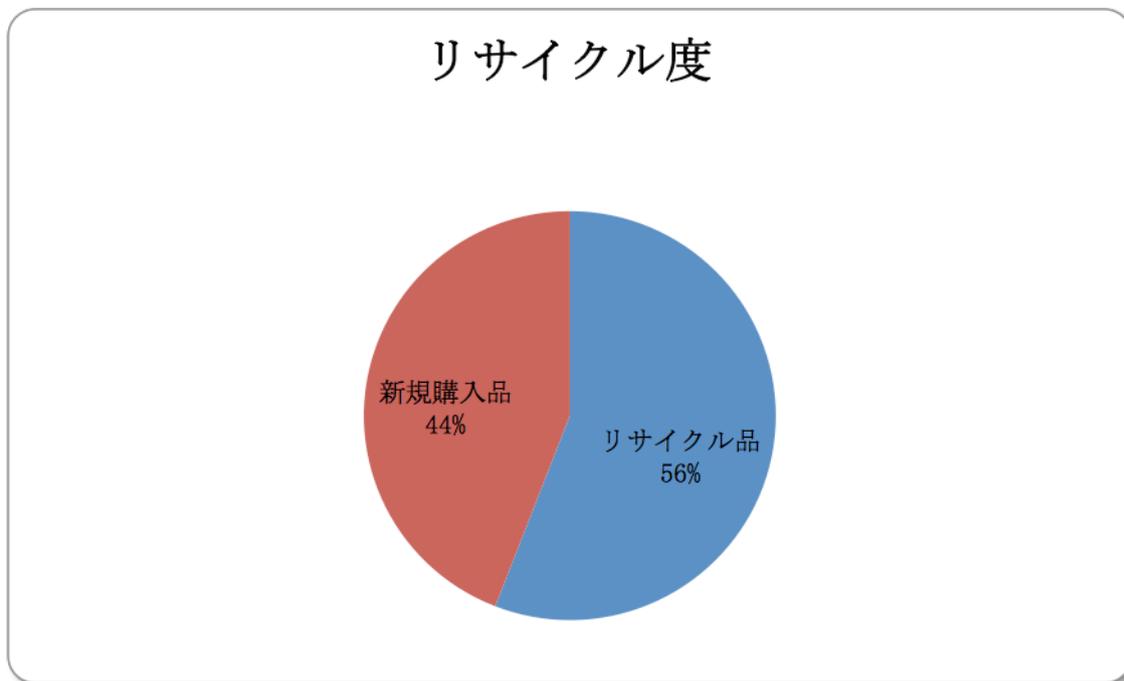
リサイクルで調達するもの：

項目	実際価格 or リサイクル	調達先
布	580円	各自自宅から持ち寄り
ボタン	189円	各自自宅から持ち寄り
マジックテープ	136円	各自自宅から持ち寄り
リボン	140円	各自自宅から持ち寄り
縫い糸	115円	各自自宅から持ち寄り
セロハンテープ	105円	各自自宅から持ち寄り
綿	252円	各自自宅から持ち寄り
牛乳パック	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
携帯電話の箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
サランラップの箱	リサイクル	各自自宅から持ち寄り
段ボール	リサイクル	自宅周辺のお店
合計	1517円	

新規購入分の総額 1197 円
すべて新規購入した場合の総額 2714 円

新規購入分の総額：すべて新規購入した場合の総額
 $1197 \text{ 円} : 2714 \text{ 円} = 44 : 100 = 11 : 25$

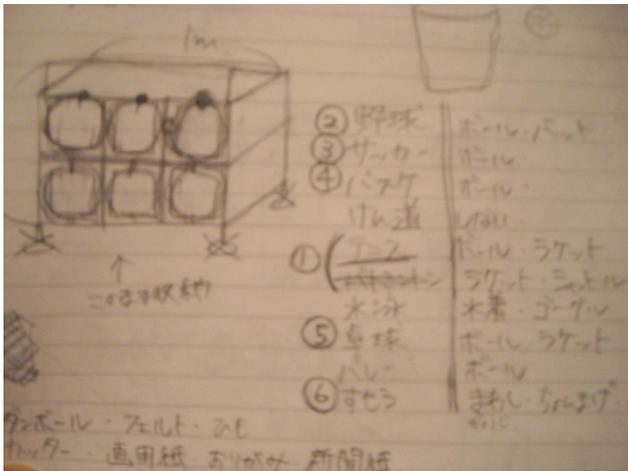
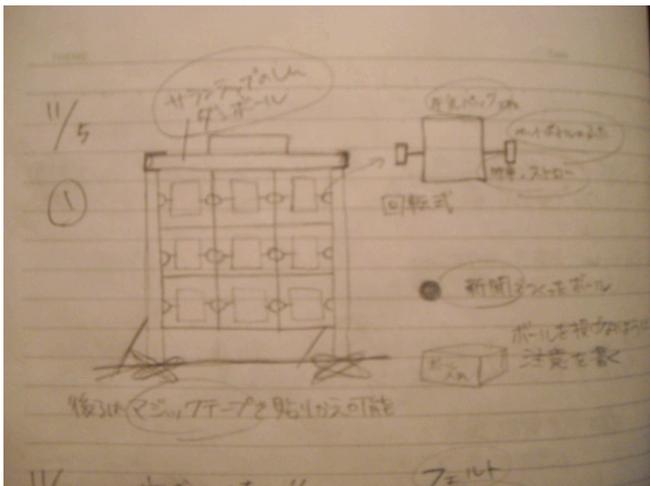
2. リサイクル度



私たちの班は、「リサイクルプロジェクト」として取り組んでいる課題であることから、牛乳パックや空き箱などのリサイクル品を使うことにこだわった。教員が学校でこのような作品を作る際に、全て自宅から持参することは難しいと考えられるが、使わずに捨てられてしまうのであれば特徴を活かし作品に盛り込むべきだと考えたためである。そして各自が自宅で使わずに、埃を被っている綿や布などを持ち寄ることによって極力資金を使わないように努力した。またボタンやリボンを使用したけど、使ったのはほんの一部であり買うに満たないと考え、各自の自宅にあったものを持ち寄りリサイクルすることにした。そのため、いざリサイクル度を調べてみると想像していたよりもリサイクルの割合が低かった。しかし、これは購入しない牛乳パックや空き箱を有効に使い、本当ならば購入しなければならない材料をあまり利用しなかったためだと考えられる。リサイクルの割合は低かったが、購入したものは必要最低限のものなので私たちは満足している。

デザイン

資料

日付	デザイン	玩具について
11・3		<ul style="list-style-type: none"> 一番初めに出た案 <p>大きな箱を6つに区切り、6種類のスポーツを知る。</p> <p>しかし、 収納がかさばる 遊び方が思い浮かばなかった</p> <p>案を変更することになった</p> <p>↓</p> <p>玩具の役割・目的を明確にする</p>
11・5		<ul style="list-style-type: none"> 2つ目の案 <p>ストラックアウト感覚の玩具</p> <p>しかし、 頑丈なものが作れない 安全性がない</p> <p>再び案を変更することになった</p> <p>↓</p> <p>収納面・安全面を考えたものにする</p>
11・20		<ul style="list-style-type: none"> 最終的な案 <p>カルタの要素を取り入れた玩具</p> <p>安全面・収納面では問題がなく、 遊びだけでなく学習の要素も含まれる</p> <p>片づけ用のBOXも用意する</p>

3. チャレンジ

改善点：

日付	改善前（どこに、どんな改善が必要か）	改善後（どう改善したか）
11・3	1つ目の案ではテーマに沿った玩具ではあったが、子どもに適した遊び方が思い浮かばなかった。	今回の案を無駄にせず、発見したことを次の案に活かしつつ試行錯誤を積み重ねた。
11・5	ルール（社会的規則）のある玩具を作るためにスポーツを活かしたゲームについて考えた。しかし、リサイクルでは丈夫なものが作れず、玩具の破損・子どもの怪我の恐れがある。	第一に玩具で遊ぶ子どものことを考え、怪我をする恐れのある玩具では安心して遊ばせられない。安全面について追及することとした。
11・20	昔ながらの遊び、カルタに注目した。遊びとともに学習をも取り入れることが出来る。牛乳パックを使用し、表面と裏面で2通りの遊び方が出来る玩具を作ることにした。	牛乳パックを切り取るサイズ、厚みなどに気を配り、子どもにとって安全な玩具を目指した。さらに、カルタは収納でかさばることもなく保護者・指導者の手間も省くことが出来た。さらに、収納BOXを用意し、子ども自身が積極的に片づけが出来る仕組み。
11・20	カルタの四つ角が尖っているため、怪我をする恐れがあると考えた。	周囲にフェルトを貼り付け、尖っている部分を覆った。万が一、投げってしまうことがあっても衝撃を和らげることが出来る。
11・24	4つの収納BOXにどのような工夫を凝らしているか、子どもが生活で役立てることが出来るような作業を加えようと考えた。	手先の運動として、ボタンの取り付けやリボン結びなどを収納の際に出来るようにした。小さい子どもに関しては、出来る子がやってあげる・教えてあげるなどにより、子どもの中で自然と役割分担が出来る。

チームワーク：

	チームプロジェクトから学んだこと	チームプロジェクトで苦労したこと
藤川	毎回全員が揃うとは限らず、不参加のメンバーと連携をとってプロジェクトを進めていくことでチームワークの大切さを学んだ。さらに、仕事を分担し効率よく作業を進めていくことから役割分担の重要性をも学んだ。	授業の空き時間で作業を進めていくことの難しさを感じた。そして、それぞれの意見を1つにまとめることがこれほどにも大変だとは思わなかった。
石井	おもちゃ一つにしても、グループ内で多くの意見が飛び交い、視野が広がった。そこから、同時に自分の意見を持ち、話し合うことの大切さも学んだ。	始動したのが遅く、話し合う時間をとることに苦労した。また、みんなが納得のいくものを作るために話し合いを重ねたが、アイデアが豊富すぎてどこで一線を引くのか、決めることが難しかった。
加藤	グループで行う活動の難しさ。当然ながら、5人のメンバーがいれば5種類の意見がある。それぞれの良い点悪い点を両方踏まえた上で班の考え方として1つにまとまる大変さは、計り知れなかった。	どこを妥協点にすれば良いのかわからなかったこと。ここで終わりでもいいのか、もっと追究すべきなのか、今までにない程に悩んだことは間違いない。
唐島	子どもの間だけでなく、教員志望の私たちや実際の教員の間にも、自然と役割分担がされていくことを実感することが出来た。他のチームとの連携なども含め、コミュニケーションが欠かせないと感じた。	長期間にわたってチームでの作業を続けること、参考文献を根拠づけて述べることの難しさにとっても苦労した。子どもにとって良い玩具を制作する上で、様々な視点から物事を捉えなければいけないなど、自分には教師を目指す上で欠かせない知識が不足していることについて改めて感じさせられた。
斉藤	子どものおもちゃは、安全面や子どもが発達する段階で、どのように影響を与えているのかという事が含まれた上で、作られていたの	グループみんなで空き時間を利用して集まるということが、いかに大変かがわかった。また「どんなおもちゃを作るか？」という始めの段階で手こずり、

	だと改めて知る事が出来た。また、グループで話し合う時は、いかに意見を共有出来るかが大事なのだとわかった。	子ども達にとって安全でかつ楽しいおもちゃとはどのようなものなのか、話し合えば話し合うほど深く、苦勞した。
--	--	--

5. 利用者の安全

安全管理：予測可能なリスクを列挙し、そのためにどのような対策を練っているか書く。

想定できるリスク	リスク回避の方法	具体的に用意するもの（安全マニュアルなど）
遊び方を理解し、ルールを守るか	遊ぶ前にはきちんと説明を行い、保護者・指導者の同伴のもと遊ぶ	特になし
カルタに書かれた絵・問題を理解出来るか	年齢により理解度が異なるため、年上の子ども・理解出来ている子どもが誘導出来るようにする	特になし
カルタのカードを投げて子どもが怪我をしないか	カードの周囲にフェルトを貼り、万が一の時の衝撃を和らげる	特になし
お片づけ BOX で遊んでしまわないか	片づけをする直前に子どもの前に差し出す	特になし
カードの色によって四季別に片づけてしまわないか	数枚、4色（ピンク・黄色・オレンジ・水色）以外の色のカードを混ぜる	特になし

6. 共有度

年齢に応じて遊び方を変える具体的な案
子どもにより発達段階が異なるため、その子に応じた遊びを提供する

<基本（5～6歳）>

問題カードと答えカードに分ける

↓

答えカードを床に広げ、問題カードを読む

↓

カルタと同じ要領で、答えカードを探し当てる

↓

答えカードが一番多い人が勝ち

↓

春夏秋冬の絵を見ながら、4つのお片づけ BOX に収納

問題の文章を読むのが難しいと考える3～4歳は大人と一緒にやる。

問題ではなく、春夏秋冬の絵を使い遊ぶ。

<3～4歳> 大人と一緒に ①

春夏秋冬の絵を見て、4つの箱に分ける（枚数は年齢・人数に応じて調整）

<3～4歳> 大人と一緒に ②

大人「○○の絵を探してみよう！！」

答えのカードを探し出す（枚数は年齢・人数に応じて調整）

7. プレゼンカ

報告計画：クラスでの報告、または担任への個別報告した内容と担任からの指導内容など

日時	報告担当者 (1人1回は報告)	報告内容(進行状況、課題、課題解決の方法案、今後の予定など)	担任からのアドバイスなど
11・24	石井	作品の説明 <ul style="list-style-type: none"> カルタについて お片づけBOXについて 対象年齢の検討 安全面について 今後の予定 →中間発表に向けて	<ul style="list-style-type: none"> なぞなぞの答えが一目でわかるよう番号をふる 現場は国際化している →日本の文化が全てではない 対象年齢に合わせ、妥協も必要。 →どこで一線を引くか
11・27	全員	中間プレゼン・作品の説明 <ul style="list-style-type: none"> カルタについて お片づけBOXについて カルタに至った過程 遊び方(学べる内容) 制作上の工夫 今後の予定 →発表の概要の資料配布	<ul style="list-style-type: none"> 時間配分 掲示した写真の説明 反省を最終プレゼンで直せるようにする。
12・8	唐島	<ul style="list-style-type: none"> 全カード・全箱の完成報告 →デザインの全体像 遊び方・注意書きの書き方 →簡潔にルールを説明したい 実際に遊ばせる日程報告 →平日の公園・児童館 	<ul style="list-style-type: none"> 箱の強度を高めること フェルトのはがれ補修 保護者用のルールブック →字が読めない子どももいる 予想外の遊び方などの観察 →なぜそのような遊び方をしたか
1・5	加藤	<ul style="list-style-type: none"> 児童館に行った時の報告 →対象年齢の再検討 問題の提起 	<ul style="list-style-type: none"> 数枚、カルタを改善する
1・13	斉藤	<ul style="list-style-type: none"> カルタの改善 →カードの色と季節の絵をミックスさせたものを作成 対象年齢について →実際に遊ばせられなかった3・4歳について フォーマットとレポート →違いとは 	<ul style="list-style-type: none"> 対象年齢は文献でカバー フォーマットはあくまでチームとしての活動報告書 レポートは個人的に分析することが求められる
1・15	全員	最終プレゼン	